

2. 人材を育てる 科学コミュニケーターの養成

科学コミュニケーターを社会へ輩出するとともに外部人材向けの科学コミュニケーション研修を実施しています。

■科学コミュニケーターの輩出

日本科学未来館の科学コミュニケーターは最長5年の任期制職員として採用され、展示フロアでの解説やイベント、展示の企画などの科学コミュニケーション活動を実践しています。任期終了後は科学コミュニケーションの経験をもつ人材として、研究機関や大学、科学館・博物館、企業、教育機関などで活動します。2015年度は15名の科学コミュニケーターを輩出しました。

2015年度の輩出先

輩出先の業種	研究機関・大学等	企業等	その他	計
人数	7名	4名	4名	15名

▶長期派遣教員の受け入れ

現職教員が科学コミュニケーターとして未来館の活動に携わることで、科学コミュニケーション活動のノウハウやスキルを学び、学校教育現場へ還元することを目的として、1名の長期派遣教員を受け入れました。展示解説、実験教室の講師、特別イベントの企画・運営、企業等との連携活動、記事執筆等の業務を通じた研修を実施しました。

期 間：2015年4月1日(月)～2016年3月31日(月)

派遣元：埼玉県立上尾鷹の台高等学校（担当教科：化学）

2. 人材を育てる 日本科学未来館の科学コミュニケーター(2015年度)

日本科学未来館での科学コミュニケーション活動を通して、科学技術と社会をつなぐ役割を果たしています。2015年度に活動した科学コミュニケーターを紹介します。



雨宮 崇

「地球温暖化は俺が解決する！」という熱い想いを胸に、大学院では省エネのための材料研究に没頭。院修了後、理科の面白さを子どもに伝えるためのデジタル教材を開発。未来館で最先端科学に触れたい・伝えたい！



安曾潤子

小さいころに図鑑で見た「変な形の生きもの」が不思議で、ハンマー片手に「化石」を探す「古生物学」の道に入ってしまった。自然史博物館で学芸員として7年間勤務し、未来館へ。見えない未来を考える時、地球の長～い歴史がヒントになれば幸いです。



石田茉莉奈

好きなものは「生物」と「コミュニケーション」。ところが、大学で生物の研究者には向いていないと挫折。コミュニケーションを極めようとしてシステムエンジニアとしてお客様にシステムを提案する日々を送る。しかし、生物への愛は忘れられず、「生物」と「コミュニケーション」の組み合わせにチャレンジしたい！と思い未来館へ。



伊藤健太郎

研究者を目指し大学院で研究をしていたが、大学院在籍中に突如、青年海外協力隊として西アフリカのベナンへ赴く。その時の経験から社会と研究成果を結びつけることに興味をもつ。学位を取得した後、研究員として放射線測定などに従事し、未来館へ。



入川暁之

小学生のときに瀬戸内海で遊んだことがきっかけで海洋生物学の道に。その後、マグロ漁船乗組員や潜水士をしながら貯めたお金で大学へ。沖縄の海でサンゴの研究をすることに。そこで生物多様性の大切さに目覚め、現在は研究活動しながら科学コミュニケーションに精進。特技は素潜り。



岩崎 茜

マスコミ勤務の後、研究職を目指して大学院に進学。専門は環境哲学・倫理学(社会学博士)。自然保護において科学的知識と生活知の融合が重要であると考え、その際、専門家と一般の人々との橋渡しをする科学コミュニケーターの役割に注目している。「すべての学問の土台は哲学である」をモットーに、社会や自然に関するあれこれを思索することから科学にアプローチしていきたい。



榎戸三智子

子どものころ、空を眺めては宇宙のナゾに思いを馳せる。大学時代に出会った量子の世界に心ひかれ、素粒子物理学を研究(理学修士)。たくさんの人、特に子どもが科学をもっと楽しむ日本にしたい！



大淵希郷

生まれて初めてしゃべった言葉は「アリ」。大人になっても、この世にいるんな生きものがいることが不思議で、トカゲ、コイ、ミドリムシなどの進化について研究。その後、動物園で飼育係として働く。そこでヒトとも動物とも「対話する」ことの大変さ、難しさ、楽しさを感じ、未来館へ。夢はいつか今までにない動物園をつくること。趣味は生きもの散策、アキバ散策。特技はトカゲ釣り。



小熊みどり

子どもの頃から宇宙が好きだったが、なぜか学部では温泉の研究をする。好奇心旺盛すぎて大学を飛び出し金融業界へ。一周回って、その後大学院でやっと宇宙の研究を始める。宇宙ミュージアムTeNQ等研究室での展示活動に関わったことで、科学コミュニケーションを本格的にやってみたいと思い未来館へ。



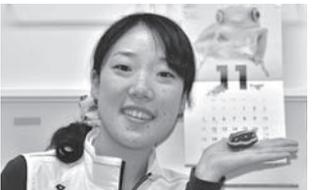
金 祉希

韓国出身です。大学から日本へ留学。博士号取得後、神経科学の分野で研究員として基礎研究に携わり、黙々とサルを使った実験の日々を送る。そろそろ人と話したいと思い、未来館へ。



金城文乃

火山噴火のテレビ中継に釘付けになっていた幼年期、プレートテクトニクスに衝撃を受けた小学生時代を経て、受験科目としての暗記や対策ばかりの理科に満足出来ず、大学院まで地質学にのめり込み、そのまま石油開発業界へ。2011年の東日本大震災を期に、研究職を離れて科学と自分のあり方、生き方と向き合うため、外資系電機メーカー等を経て、2015年より未来館へ。



熊谷香葉子

少女時代の友達はアリとカエル。大学1年で、ウミウシと運命の出会いを果たす。ウミウシを採ったり飼ったり解剖したりして修士号を取得。学生時代に、博物館ボランティアと小学校理科の助手を経験。小学生向け塾から2012年10月に未来館へ。博物館を、もっと身近で、だれもが学べる会場にしたい。未来館での友達はユノハナガニと乾眼中のクマシ。



コドブロス・ディミトリス

ギリシャから来ました。「どうして日本に来たの?」とよく聞かれます。小さいころから「日本に行きたい!」とずっと言っていました。日本の美学とわびさびに夢中になったからです。2年間半前に来日し、天文学を研究しました(天文学修士)。未来館では、科学は芸術とどうやって繋がっているかをずっと探求したいです。日本語、英語、ギリシャ語のいずれかで話しかけてください!



小宮山貴志

専門は人間工学(修士)。玩具メーカー勤務を経て、2012年4月より現職。「やるんだったら、みんなでおもしろく!」がモットー。特定の誰かではなく、誰もがおもしろいと感じることが重要。どんなトピックに対しても科学を武器にした、おもしろサプライズが起こせないかと模索中。最近の関心は、みんなの夢と感動体験。



佐尾賢太郎

ナノバイオテクノロジーの研究で博士号を取得し、製薬企業での研究員を経て現職。人の喜ぶ顔を見るのが大好きで、「考える・感動する・楽しむ」がモットー。どうすればお客さんに伝わるかを考えて実践し、喜んでもらうことで自分も感動や楽しさを得ていくことが目標。



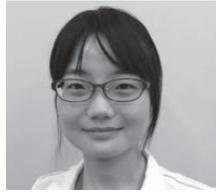
佐竹 渉

幼少の頃から宇宙に興味を持つ。大学で東南アジアにある遺跡の石材の研究をするも、石で宇宙を対象にできると知り、隕石に研究テーマを転向。大学院で博士を取るかわたら、宇宙航空研究開発機構で「はやぶさ」の持ち帰ったサンプルの初期分析を手伝う。



志水正敏

生物学の研究者になるべく、熊本から上京。しかし研究室にじっとしていられず、東京のまちをふらふらと。この社会のために、科学を学んだ自分は何ができるのだろうか？その答えが未来館でした。放浪癖を「フットワークの軽さ」と捉え、科学と社会をつなぐ！



沈 晨晨

地球環境に関心があり、大学で環境科学を勉強しました。大学を卒業してから日本で留学した時にいるプランクトンの世界を探索しました。研究すればするほど地球環境や生物多様性などの重要性がわかりました。従って多くの人が環境に関心を持ってもらうように科学コミュニケーション能力が不可欠だと認識しましたので、2014年10月より未来館へ。



蔣 赫

中国の青島の出身です。2001年に日本へ留学しに来ました。大学の専門は地震防災学で、大学院では情報通信学です。メーカーの研究開発を経て未来館へ。日本の科学コミュニケーションに対する考え方を全世界に発信し、各国の交流を深めていきたいと思っています。



徐 大強

中国・ハルビン市の出身。大学院修了後、1年間小学校に勤め2014年4月より未来館へ。もともと理科教育に関心をもっていたため、未来館で自身の科学コミュニケーション能力の向上を追求していきたい。



鈴木啓子

大学院在学中に科学コミュニケーションにはまり、博士号取得後2012年4月より現職。専門は神経科学。研究対象がヒヨコだったので高じて、鳥全般が好き。科学と未来についてお客様とゆるく語り合っていきたい。



高橋麻美

学生時代の半分は海で過ごした、海と生物大好き海人(うみんちゅ)科学コミュニケーター！不思議なことに、大好きな海を通せば苦手だった物理も化学も地学にも興味湧いてきた！?この経験を生かして、最近では海だけでなく色々な「科学の見かた」を模索中！大学では環境問題の一つ「海洋酸性化」と「サンゴ」をテーマにサンゴの飼育実験や無人島での調査を行い修士号取得。



武田真梨子

魔女になりたい！と思いつながらその辺の草や生き物と戯れていた子ども時代。高校では生物学が一番好きな科目でした。大学に入ってから環境科学を専攻。その後、高校理科教諭、研究所アシスタントの経験を経て、2014年から未来館へ。



田中 健

大好きな故郷の環境を守りたいと思いつながら、地元県庁に入庁。環境問題への取り組みを通じ、地球の未来について、科学的な視点からより多くの人と一緒に考えていきたいと思うようになり、未来館へ。趣味は、歌うこと、旅行。世界の美しい自然をまだまだ見たい！世界遺産もたくさん見たい！



谷 明洋

好奇心のままに、地域を伝える新聞記者から、科学を伝える科学コミュニケーターへ。学生時代は陸路のアドベンチャー旅行中、東から西へ向かうオリオンを見て「おい地球の、今は赤道近くにいるんだな」！と不思議な理由が知りたくなり、たからドモンって気持ちよく聞かせるのか！小さな疑問に駐在した地方紙記者時代は、かつお節の伝統工場で職人技と発酵のコラボが生み出した日本の宝だ、いちいち感動します。2013年4月に未来館に入り、いっそう幅広く、深く興味と遊び心。「伝える」経験と合わせて、ひとりの人間として何ができるのか。人に会い、場を訪ねながら、探求しています。



田村真理子

フラーレンに夢と希望を感じ有機化学を専攻。修士課程修了後、高校教師を経て2012年4月より現職。科学コミュニケーションを通じて、多くの方々との対話をするなかで日々自分自身も成長したい。文系・理系問わず興味を持ったものは徹底的に調べ、何事も恐れずにまよってみる！歳をとっても、好奇心を忘れずに生きていきたい。



千葉磨玲

アメリカ留学時代は植物ウイルスの研究、帰国後はがん細胞分裂期のRNAiに関する研究を行い(理学博士)、2011年4月より現職。大学院時代から研究してきたSTS(科学・技術と社会)と中国科学技術館人材交流プログラムで養われたグローバルマインドセットをバックボーンに地球規模課題の解決へ取り組んでいく。



陳ドゥ

出身地は中国の北京。高校を卒業後、日本へ。東京工業大学で触媒化学を学ぶ。ロンドンサイエンスミュージアムなどでインターンシップを経験した後、科学をやるより語るほうが自分には合うと感じ、科学コミュニケーションの世界へ。ロンドンのトレントリナ科学展示から感銘を受け、科学をオシャレに伝える方法を探索中。



戸坂明日香

子どものころから絵を描いたりものを作ることが大好きで、美術の一本道を歩んできました。大学4年の時、彫刻を作るためのモチーフ探しに科学博物館へ足を運んだのがきっかけで、科学に興味を持つようになりました。想像と創造を求めて未来館へ。



新山加菜美

高校生の頃、科学番組(不思議現象を解明する！)を見て、研究者になることを決意。大学院修了後、診断薬メーカーで製品の研究開発に携わる。科学実験の「考える」楽しさを伝えたいと思い、未来館へ。



西岡真由美

「人・動物・自然の調和を未来につなぐ」ことが人生のテーマ。小動物の臨床医として勤務後、人と自然の結びつきに働きかけるには、科学社会と向き合う必要があると考え、科学コミュニケーターの道へ。最近では科学や技術と関わりの深い社会学、政治学、哲学などにも関心を持っている。



西原 潔

大学院と研究所で植物の染色体について研究し、2011年4月より未来館へ。言葉と写真による表現の方法を模索しつつ、科学について語り合うための土壌づくりを目指している。根が寂しがり屋なので、さまざまな人との出会いを大事にしていきたい。趣味は写真とドライブとワイン。



野副 晋

大学院修了と前後して青森県六ヶ所村の研究所に就職。このときのプロジェクトが未来館で取り上げられたときから未来館の科学コミュニケーターに興味を持つ。その後、別の研究所での勤務を経て、より一般の人と近い距離で科学の話をしたいと思い、2011年10月より未来館に。メカ好き、のりもの大好きな二児のパパ。



長谷川麻子

理系一家に育ったロシア文学専攻(現代詩)。未来館が開館した2001年夏まで一年間モスクワに暮らす。帰国直後、米国で同時多発テロが起きた。それから10年。外務省勤務やロシア語の通訳翻訳業を経て、2011年から科学コミュニケーターに。アプローチこそ違え、真理を見極めたいという思いは文系も同じはず。Geo-Cosmosの美しさにパワーをもらいながら、日々新たな気持ちで学び、驚きや喜びをいっしょに言葉にしていきたい。



濱五十鈴

事故や病気のために手足の不自由になった人の治療を目指して、再生医療の研究に6年間携わり、博士号(医学)を取得。2012年春より未来館へ。科学のお話を通じて多くの人を笑顔にしたいと思い、科学コミュニケーターになりました。目指せ！人類70億、総笑顔!!



浜口友加里

子どもの頃の夢は、「歌って踊れる精神科医」！でも医者さんにはなれませんでした。それでも、人のことについて知りたくて、学部で心理学、大学院で神経科学を学びました。医薬品の臨床開発職、百貨店での化粧品販売員などを経て、サイエンスもおしゃべりも好きな自分になりました。目指せ！その両方を仕事にしたいと未来館へ。



樋江井哲郎

"文系あがりの、なんちゃって理系"大学で経済学を勉強していたが、体内時計の特集番組がきっかけで、科学に興味を持つ。普通は興味の段階でとまるところを、躊躇もせずに理系の大学院へ進学。研究者を志すが、後に研究には向いていないと挫折。ただ科学好きはおさえられず、未来館へ。



福井智一

大学で研究員としてショウジョウバエと戯れるも、野生の世界への憧れを捨てられず青年海外協力隊としてアフリカ・ケニアで野生生物保護活動に従事。帰国後はケニアで撮影した写真をもとに個展などを行う。紆余曲折の後、無節操な知識欲と経験を活かすために未来館へ。



福田大展

クローン人間? いいえ。「クローン病」。特定疾患のクローン病を患う難病科学コミュニケーター。専門は物性物理。大学では太陽電池用のシリコン結晶を作成する研究に携わり、修士(物理学)を取得。新聞記者として4年半、地震防災や浜岡原発などを取材した後、2012年10月より現職。「事件は研究室じゃなく現場で起きてるんだ!」がモットー。エネルギー問題や放射線、地震など、有事の科学コミュニケーションに興味があります。



藤井満美子

専門は分子生命科学。ガン細胞のタンパク質の研究にて修士号取得。卒業後は、「特定の研究というクローン社会ではなく、さまざまな社会で働く人とパイプがある仕事がいい」と思い、畑違いではあるがシステムエンジニア(SE)として就職。科学を「伝える」だけでなく、「感動を共有」できるようにすることを目標に奮闘中。多くの方々の「おもしろい!」をパワーに日々成長していきたいと思っています!



古澤輝由

大学院修了後、高校で生物の教員をしつつ、科学と芸術をつなぐワークショップの企画・運営に関わる。その後、青年海外協力隊としてアフリカ、マラウイ共和国で2年半、理科教育を。節操のないことが取り柄と信じ、まとまりのない経験をまとめて活かすため、未来館へ。



ヘイチク・パヴェル

チェコ出身。中学校の頃から宇宙の誕生やブラックホールなど、狭い地球の枠を超えるトピックに興味をもち、大学で物理と数学を専門にした。卒業後社会に出て、社会と科学の深い繋がりを感じ、その共生についてもっと知りたいと思い未来館へ。



堀川晃菜

微生物に秘められた可能性に胸ときめかせ、大腸菌の研究で修士取得。農業・種苗メーカーに就職し、農業という一つの科学技術の産物に対し、多くの方がネガティブなイメージを抱いていることにショックを受ける。これを機に、科学と人々の架け橋になりたいと思い、未来館の科学コミュニケーターに。みなさんと一緒に未来の在り方を掲げる科学コミュニケーターを目指します。(そこに微生物を絡めることが密かな夢)



本田隆行

大阪・枚方が育てた、自称「おしゃべりな理系」。宇宙の神秘に魅せられて、大学院では惑星科学を専攻(修士)。卒業後は地元の市役所で勤務するが、好きな科学が忘れられず未来館へ。科学・ひと・まちをつなげて日本をおもしろくしたい!



本田ともみ

「環境問題とよりよい福祉は両立できるの?」そんな疑問から一番ミクロな実践として「園芸療法」を研究してきた7年間。人がワクワクする場、変化する瞬間を見るのが生きがい。チェコと宮沢賢治をこよなく愛する。人と人が生み出す化学変化を、地球の未来にいかせる科学コミュニケーターを目指します!



益原愛子

専門は農学。縁あってメキシコへ留学、現地の大学院(農業森林学修士)に進み、明るくおらかなテンションにもまれながら無事帰国。人でも多くの日本に住む人たちと、そして日本から遠く離れたさまざまな国の人と未来館をつなげていきたい。科学を楽しく感じて、世界視野での地球環境を身近なところから考えていくことをモットーとする。



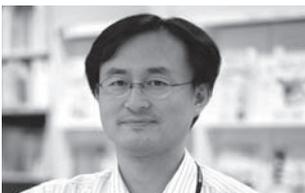
松井 彩

「人は一生のうち「満月の瞬間」を何度見ることが出来るんだろう...?」歩きながら空を見上げ、もの思いにふける。哲学者になりたかった科学コミュニケーター。2013年4月から日本科学未来館で働いています。大学の研究成果からビジネスをつくる「技術移転」という仕事をしていましたが科学コミュニケーションの世界に飛び込んできました。科学とアートと哲学が好き!そんな私の頭の中、ちよびつとお見せします!



松浦麻子

大学院のころ、科学コミュニケーションに興味を持つ。研究者が科学コミュニケーターになりたかったが、「一度、社会に出たほうがいい」と恩師に言われ、就職。原子力安全に関わる業務に従事。東日本大震災を機に、科学技術の裏と表の両方を伝えられる人になりたいと、満を持して2013年10月から未来館へ。



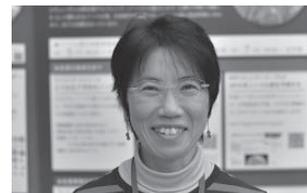
池辺 靖

科学コミュニケーション専門主任
理学博士。宇宙物理の分野で、理化学研究所、ドイツマックスプランク宇宙空間物理研究所、アメリカNASA/GSFCにおいて9年半の研究生活を経て、2004年より未来館勤務。



小沢 淳

科学コミュニケーション専門主任
科学技術系シンクタンクを経て現職。専門はコンピュータ・グラフィック。前職では、情報技術を使った近未来社会の予測や、科学技術と文化芸術の融合領域における政策研究などをおこなった。未来館では情報科学技術分野の展示企画を担当。



詫摩雅子

科学コミュニケーション専門主任
理学修士。植物生態学を学んだ後、全国紙の科学技術部記者、一般向けの総合科学雑誌の記者・編集者として生物学や生命科学を担当。2011年に未来館に。新しい医療技術やバイオテクノロジーが、ときに過剰な期待や不安をもたらしてしまうことを何とかしたいと考えている。



松岡 均

科学コミュニケーション専門主任
理学博士。専門は宇宙物理学。大学院修了後、国内外での研究生生活を経て、2004年に未来館へ。その後、JAXA宇宙教育センターで学校教育の支援活動に従事し、2012年に再び未来館に戻り現職に就く。さまざまな経験を活かし、社会と研究者の橋渡しをしたいと思っている。



森田由子

科学コミュニケーション専門主任
博士(理学)。専門は生物学(動物学)。大学と製薬会社で、基礎科学と応用科学のそれぞれの立場を経験したことが、現在のモノ・コトの考え方に大きな影響を与えた...と思っている。2012年より現職。科学コミュニケーションマインドをより多くの人が持つようになるためのしゅみを、考え続けている。



藪本晶子

科学コミュニケーション専門主任
文学部卒業後、教育教材、雑誌、書籍などの編集に従事。日本科学未来館では紙やウェブなどの媒体制作のほか、展示に関する情報編集などを担当。